

## 12. 下顎非対称を伴った顎関節症に対する EMG Biofeedback 療法を応用した治療について

○大野 秀夫, 奥 猛志, 住 和代,  
旭爪 伸二, 松本 晋一, 森主 宜延, 小椋 正  
(鹿大・歯・小児)

顎関節症の治療法としての EMG Biofeedback 療法は、疼痛の治療、運動単位の随意制御ならびに筋の弛緩訓練を目的として使用されている。

今回、我々は、下顎非対称を伴った思春期の顎関節症患者 1 例を経験し、顎非対称の改善を目的として EMG Biofeedback 療法を応用し、今後の顎関節症の治療に関して参考となる知見を得たので報告する。

### 症 例

患者：水○真○，女性

生年月日：昭和 44 年 5 月 29 日

初診：昭和 59 年 7 月 19 日，15 歳 2 カ月

主訴：左右顎関節部疼痛

既往歴：昭和 58 年 11 月，左右顎関節部の異和感ならびに開口制限を自覚したため，人吉市人吉総合病院歯科を受診したが緩解しなかった。次に，人吉市の某歯科医院を受診，治療を受けるも症状が消退しないため，本学を紹介され来院した。

現症：顎関節雑音，顎関節部疼痛ならびに開口障害が認められた。顔面の非対称性がみられ，右側咬筋部が左側咬筋部に比較し肥大していた。

治療経過：

昭和 59 年 7 月 Michigan splint 装着

昭和 59 年 11 月咬合調整

昭和 59 年 12 月 EMG Biofeedback 療法開始

昭和 61 年 1 月咬合再構成開始，7 月終了

現在，EMG Biofeedback 療法継続中